

特集「人文科学とコンピュータ」の編集にあたって

関野 樹^{1,a)}

情報処理学会の研究会の1つである人文科学とコンピュータ研究会 (SIG-CH) では、30年近くにわたって、人文科学分野へのコンピュータの応用をめざし、図書館、文書館、博物館などとも連携しながら、学際的な研究を進めてきた。それらの成果は、情報技術という観点では、必ずしもすべてが最先端とは言えないものの、情報処理学会がこれまで培ってきた技術の可能性を拓き、新たな分野を開拓するという点で、学術的、社会的な貢献を果たしてきた。

その一方で、これらの研究成果を公表する場合は、同研究会の主催で毎年開催される人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん) などに限られている。学際的な研究成果を適正に査読し、学会や社会へ幅広く発信するための場の確保が喫緊の課題であった。こうした状況に鑑み、同研究会により企画されたのが本特集号である。

本特集の対象は、情報技術を活用した人文科学分野の研究、および、情報技術の発展に資する人文科学に関連する情報資源の記録、蓄積、提供に関する最新の研究成果である。情報学系の研究者はもちろんのこと、人文科学系の研究者など、情報技術を応用しようとする諸分野とも成果を共有することにより、研究分野の裾野を広げることを目的としている。

本特集では、2016年10月から翌年5月までの募集期間中に、24編の論文が投稿され (うち、英語論文2編)、最終的に12編の論文が採択された (うち、英語論文1編)。採択率は、当初の想定よりやや高めめの50%であったが、投稿数は、想定より2倍近くとなった。これは、「人文科学とコンピュータ」というテーマでの初めての特集企画であったこと、また、テーマの特性上、対象となる分野が広いことが影響したと考えられる。さらに、これらの論文には、ふだんの人文科学とコンピュータ研究会では稀な分野の論文や、研究会の活動に参加したことのない著者も散見された。本テーマの拓がりや奥深さを改めて実感しているところである。

本特集では、基本的には一般論文と同様の査読方針により論文の審査が行われた。ただし、学際分野であるという点も考慮し、情報技術としての新規性だけでなく、人文科学分野への貢献という点も慎重に考慮した。また、惜しくも採択に至らなかった論文についても、今後の研究の向上

や深化に貢献するよう、可能な限り詳細かつ具体的なコメントを心掛けた。これらの論文著者には、一般論文などとしての再投稿をぜひとも期待したい。さらに、本特集の効果は、著者のみにとどまらない。本特集をきっかけに、今回初めて情報処理学会・論文誌のメタ査読および査読を担当することとなった研究者が少なくない。この中には、人文科学分野に軸足を置く研究者も数多く含まれている。これにより、本特集だけでなく、一般論文での人文科学関連の論文の審査など、情報処理学会の活動全般においても、学問的な拓がりに貢献できたと考えられる。

本特集に掲載された論文は、文学、歴史、言語、文字、書誌、舞踊、地理など、多岐にわたる人文科学分野の題材について、研究資源の解析やデータ構築のために、情報検索、コーパス、デジタルアーカイブ、メタデータ、地理情報システム、セマンティック Web、自然言語処理といった情報技術が応用された最新の研究成果である。情報学系の研究者だけでなく、人文科学系の研究者にも、これらの研究成果が認知、共有され、さらなる研究の展開のきっかけとなることを期待したい。本特集が情報学および人文科学諸分野の双方の発展に寄与すれば幸いである。

本特集は、多くの方々のご協力の賜物である。魅力的な論文をご投稿いただいた著者の皆様、多忙中、査読にご協力いただいた査読者の皆様、論文の審査に真摯な姿勢で臨まれた特集号幹事および編集委員の皆様、ならびに、不慣れな特集号委員会の運営を適切に導いてくださった学会事務局の皆様に、心より感謝する。

「人文科学とコンピュータ」特集号編集委員会

- 編集長
関野 樹 (総合地球環境学研究所)
- 幹事
松村 敦 (筑波大学)、山田太造 (東京大学)
- 編集委員 (五十音順)
大内英範 (人間文化研究機構)、小木曾智信 (国立国語研究所)、河瀬彰宏 (同志社大学)、末代誠仁 (桜美林大学)、北本朝展 (国立情報学研究所)、後藤 真 (国立歴史民俗博物館)、阪田真己子 (同志社大学)、鈴木卓治 (国立歴史民俗博物館)、永崎研宣 (人文情報学研究所)、三宅真紀 (大阪大学)

¹ 総合地球環境学研究所
Research Institute for Humanity and Nature, Kita, Kyoto
603-8047, Japan

a) sekino@chikyu.ac.jp